

「書き続ける」ということ

館長 今川 英子

本市が主催する「子どもノンフィクション文学賞」が、今年度で一〇回目を迎えました。

「見て、聞いて、調べて、考えた ほんとうにあった話」をキャッチフレーズにした小中学生によるノンフィクションのコンクールです。毎年、全国から八〇〇編近くの応募があり、「ズッコケ三人組」で知られる那須正幹さん、「絶対音感」や「星新一 一〇〇一話をつくった人」の最相葉月さん、そして本市出身で多彩な分野でご活躍のリリー・フランキーさんに最終選考をお願いしています。

年々、読み応えのある作品が増えていますが、今回は観察や調査に加え、災害や難民問題のほか、時代を反映して孫が曾祖母や祖母を介護する関係など、テーマは多岐にわたりました。ことに小学校低学年の作品には言葉も文字もまだどしどしいのですが、伝えたいという書き手のひたむきさが真つすぐに伝わり胸に迫るものがありました。

選考委員の方々が毎回口を揃えて言われるのは、中学生の作品（四百字詰め原稿用紙五枚から五〇枚）よりも、小学生のそれ（同三枚から二〇枚）の方が優れている傾向があるということです。中学生になると自我が芽生え、上手に書くこうと意識的になっていたり、自分語りで終始してそれに酔ってしまっていたり、書きたい、伝えたいという切実さが置き去りになっていることなどが、作品をだめになっているのです。同様のことを、宗左近・みずかみかずよ記念「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コン

クルルの最終選考委員・平出隆さんもおっしゃいます。おとなに近づくにつれて余分な感情や情報が加わり、澄明な心ではいられない濁りがそのまま作品に反映しているのでしょうか。それでも書き続け、それを突き抜けてやがてはもっと佳いものを書いてほしいと願うのですが、そのためには、本を読んで読んで読みまくることだと最相さんは書いておられます。

ではおとなの文学賞はどうなのでしょう。

先日大分市で開催された第四九回「九州芸術祭文学賞」の表彰式でのご講演で、芥川賞作家の青来有一さんは、小説を書くという行為を、経済学者ドラッカーの「パラレルキャリア（本業を持ちながら第二の活動をする）」を援用しながら、作家になるとか賞をとるとかではなく、「生き方」としてとらえることができるのではないかと話されました。つまり満たされない自分、はみ出す自分を、文学によって治める、折り合いをつける。それは「生き方」なのだ。今回の六五歳の沖繩出身の大賞受賞者・平田健太郎さんは、三三年間書いてきての受賞ですが、沖繩の理不尽さについて、「政治や倫理などの小説ではなく、小なる説に一縷の望みをたくして書き続けたい」と言われています。森鷗外が軍医としての官界で自我を抑圧される苦悩を、夜、小説を書くことで解放し、組織と個人のバランスを保つたように、賞目的ではなく「生き方」として書き続けるという指摘は、小説のみでなく詩や短歌、俳句など全ての書き手詠み手への大いなるエールと受けとめました。

目次

「書き続ける」ということ	1	第41回 光草書道展	
第27回特別企画展 描かれた西郷どん展	2	〈短歌+映像〉北九州近代の記憶～炭鉱・製鉄・鉄道～	
中園ミホさんトークライブ	3	文学館展示リニューアルのお知らせ	
開会記念講話「錦絵のなかの『西郷どん』」		ロビー展	
文学講座「西郷隆盛の漢詩と人生—敬天愛人の志」（全2回）		宗左近生誕一〇〇年記念事業	7
コラボメニュー		お祝い、お梅やみ	
第5回林芙美子文学賞 表彰式および記念講演	4	平成30年度下半期「偲ぶ会」の紹介	
第9回「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式		展覧会予告	8
第10回 子どもノンフィクション文学賞表彰式	5	小倉祇園太鼓四〇〇周年記念「小倉祇園太鼓歴史展」	
「私たちのまちの児童文学コーナー」が子ども図書館内にオープン		森のささやきが聞こえますか 倉本聰の仕事と点描画展	
天災と文学—3・11後の文学と九州の災害	6	寄贈者・提供者、提供雑誌	
パネル展 映画の街・北九州—北九州フィルム・コミッションの活動と軌跡—			



描かれた 西郷どん展

市制55周年記念
北九州市立文学館 第27回特別企画展

アート
文学
サブカル
から



2018
10/27[±] ▶ 12/16[日]

平成30年度の秋の特別企画展では、明治維新から150年を記念し、維新最大のヒーローといわれる西郷隆盛を取り上げました。西郷隆盛は徳川幕府を倒し維新を成し遂げた中心人物ですが、実は肖像写真が一枚も残っておらず、素顔は謎に包まれたままです。

本展では、西郷を描いた肖像画や錦絵、文学、漫画、身近な商品パッケージ、キャラクターなどをおして、さまざまなジャンルでの西郷どんのイメージをたどりました。

そこには、当時や後世の人々が西郷どんに託した思いが色濃く表れていました。

【展示構成】

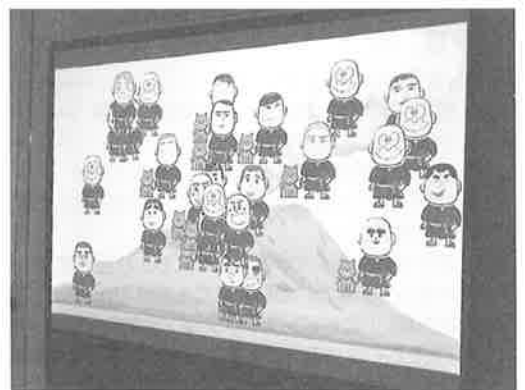
- 1 プロローグ
- 2 アートになった西郷隆盛
- 3 文学作品に見る西郷隆盛
- 4 愛される西郷隆盛くサブカルチャーへの広がり
- 5 エピローグ わたしの西郷どんを描こう

会場には、来場者が描いた西郷どんの似顔絵をその場でパソコンに取り込み、スクリーンに投影する体験コーナーを設置。皆さんが描いた、たくさん西郷どんが動き出しました。

展示資料 約200点

企画制作 Ⅱ NHKサービセンター、

かごしま近代文学館



体験コーナー
"わたしの西郷どん" を描こう

アンケート

・時代別の西郷どんの捉え方、おもしろかったです。いろいろな作家の見方も興味がありました。世界に通用する西郷どんの生き方にも感銘をうけました。似顔絵を描いてスクリーンでとり込んでくださるコーナーも楽しかったです。全体的に、西郷どんをより身近に感じられるよい展示だったと思います。(50代)

・様々な描き方をされてきた西郷どんの魅力を見せて頂けたと思いました。大河ドラマ最終回も楽しみにしたいと思います。(40代)

・いろいろな角度から西郷隆盛についてとらえていておもしろかったです。メタルバンドの題材になったのは知りませんでした。聴いてみます。(40代)

中園ミホさんトークライブ

平成30年11月24日

北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
西郷どん展の開催を記念し、平成30年のNHK大河ドラマ「西郷どん」の脚本を担当された中園ミホさんにお話をうかがいました。

東京生まれの中園さんですが、実は御父様が大分県宇佐の、御母様が福岡県の御出身。小倉は小さな頃に何度も訪れて「なつかしい」という、うれしい言葉からお話が始まりました。

「西郷どん」原作者の林真理子さんとはヒットドラマのゴールデンコンビとして知られています。明治維新150年に向け、西郷を書くため、林さんと鹿児島へ取材されたそうです。そこで、大河ドラマの時代考証も担当された原口泉さんから、これまでの視点と違う女性の眼で西郷を描くべき、と励まされました。徹底取材の中園さんは、林真理子さんが執筆される際の



右：中園ミホさん、左：今川館長

勉強会にも参加。取材にかけた時間は100時間以上に及びました。

身を削りながら、一年分の脚本を書きとおされ、西南戦争のシーンに至ってようやく西郷という人物がつかめたといえます。西郷は眼の前にいる人の心情に寄り添いすぎて、同化してしまう餅のようなひと。時代の変革についていけない人たちを抱きしめて天に連れて行った、とされました。

その後も、脚本家になられるまでの道のりや大ヒットドラマのエピソードなどきさくにお話しいただきました。会場からは終始笑い声が絶えず、中園さんの御人柄に魅了されたひとときでした。

聞き手…今川英子文学館長

開会記念講話 「錦絵のなかの『西郷どん』」

平成30年10月27日

西南戦争期の出版文化を研究される生住昌大さん(北九州市立大学准教授)にお話しいただきました。

当日は、普段手に入る機会のない「錦絵」に触れるところからスタート。錦絵のなかの西郷どんはなぜスリムなのか、なぜひげを蓄えているのか、など知の興味を刺激される楽しい講義でした。

文学講座「西郷隆盛の漢詩と人生―敬天愛人の志(全2回)」

平成30年11月10日、12月15日

中国文学者の林田慎之助さん(神戸女子大学名誉教授)に、西郷隆盛の漢詩について連続で講義いただきました。

中国文学の御著書多数の林田先生は近年、幕末維新の志士が作った漢詩に注目されています。漢詩は、学校で習ったときよりも多いのでは。難しい印象の漢詩を、西郷の人生に沿って詳しく解説いただきました。



生住昌大さん



林田慎之助さん

・大河ドラマを見て興味をもったのですが、多くの方の意見とともに西郷どんの像を浮かべることができました。さらに西郷どんについて知りたいたいと思わされる空間でした。

(16〜19歳)

・西郷隆盛が、ほんとうはどんななおかつたかを、そうぞうするヒントになりました。(15歳以下)
・本当に楽しみにしておりました。西郷さんが大好きでいろんな作家の本を見て西郷さんをもっと知り、楽しみます。(70代)

コラボメニュー

西郷どん展の開催期間中、文学館に隣接するカフェ・ラポール中央図書館で鹿児島特産品をテーマにした特別メニューを提供していただきました。



薩摩しろくま風
杏仁豆腐

薩摩あげのからし酢味噌マヨネーズ

第5回林芙美子文学賞 表彰式および記念講演

平成31年2月23日

第5回林芙美子文学賞の表彰式が、ウエルとばたで開催されました。

全国から寄せられた392編の応募作品の中から、徳島県在住の阿部あみ（あべ あみ）さんの「裏庭」が佳作に選ばれました。

表彰式には最終選考委員である井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さんもお出席されたほか、文学館関係者、地元関係者など多数の方が出席されました。

佳作受賞作品は、受賞者の阿部さんが住む徳島県鳴門市にある自然豊かな島が舞台となっており、主人公の女性と奇妙な叔母との関わりを描いています。阿部さんは、「小説を書くということとは、本来、孤独で苦しいことではないかと思っています。真摯に教えてくださる先生や切磋琢磨しあえる仲間を支えられて今日まで小説を書くことができました」と受賞の喜びを語りました。

選考委員の先生方からは、「読者も書いている人も、今までいた所から違う所にいけるものがおもしろい小説。そういう小説になるべく努力、奮闘しているのが伝わってきた」「読んだ後に独特の雰囲気が残る作品」などご講評いただきました。

表彰式後、共催・朝日新聞社、協力・朝日新聞出版により、選考委員の川上

未映子さんによる記念講演が行われました。

講演では、「小説を読むこと、書くこと」と題して、川上さんのこれまでの歩みや女性だけの書き手を集めた「早稲田文学増刊 女性号」を責任編集されたことなど幅広くお話を伺うことが出来ました。約三百名の来場者は、川上さんの貴重なお話に大変充実した時間を過ごしました。

聞き手：今川英子文学館長



阿部あみさん



表彰式講評

左から、今川館長、井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さん

第9回「あなたにいたく生きてきた詩」コンクール表彰式

平成30年12月8日

北九州市立文学館では、北九州市出身の詩人 宗左近、みずかみかずよを顕彰するとともに、子どもの豊かな表現力を伸ばすことを目的に、「あなたにいたく生きてきた詩」コンクールを実施しています。今年度は、市内外から1,054作品もの応募がありました。表彰式は文学館交流ステージで行われ、最終選考委員の平出隆さんによる講評や、最優秀受賞者による詩の朗読が行われました。

また、表彰式終了後に高山保材さん指揮の北九州市小倉少年少女合唱団、北九州少年合唱隊のミニコンサートが行われ、美しい歌声に会場の皆様も熱

心に聞き入っていました。

受賞者 小学生の部（敬称略）

宗左近賞Ⅱ小平慶（北九州市立戸畑中央）みずかみかずよ賞Ⅱ高岩恭子（鎮西敬愛学園敬愛）北九州市長賞Ⅱ岡松雪鶴（北九州市立西小倉）北九州市教育長賞Ⅱ村上桃花（北九州市立戸畑中央）北九州市立文学館長賞Ⅱ徳地屋咲葉（北九州市立三郎丸）佳作Ⅱ7名
北九州市立三郎丸小学校
受賞者 中学生の部（敬称略）

宗左近賞Ⅱ宇田桃愛（九州国際大学付属）みずかみかずよ賞Ⅱ橋本莉乃（北九州市立門司総合特別支援学校）北九州市長賞Ⅱ谷口愛美（九州国際大学付属）北九州



市教育長賞Ⅱ上村瑞稀（福岡教育大学附属小倉）北九州市立文学館長賞Ⅱ坂本裕（美萩野学園小倉日新館）佳作Ⅱ10名
学校賞Ⅱ九州国際大学付属中学校、北九州市立白銀中学校

第10回子どもノンフィクション文学賞表彰式

平成31年3月23日

今年度で第10回目を迎える子どもノンフィクション文学賞は国内外から小学生あわせて744作品の応募がありました。

文学館の交流ステージで行われた表彰式では、北橋市長や最終選考委員の那須正幹さん、最相葉月さん、リリー・フランキーさん等から出席した受賞者に、盾と副賞が贈られ、受賞スピーチで、座間耀永さんは、次のテーマも決まっていると力強く語りました。

選考委員の皆様からは、これまで以上にテーマが多岐にわたり、オリジナリティあふれる内容が多かったと講評をいただきました。

表彰式終了後は、ひびき少年少女合唱団によるミニコンサートを開催。文学館にこだまする美しい合唱により、受賞された皆様をお祝いしました。

受賞者 小学生の部 (敬称略)

大賞Ⅱ座間耀永(東京都青山学院初等部) 佳作Ⅱ新池谷悠(群馬県前橋市立桃井) 下館優希(神奈川県横浜市立さわの里) 選考委員特別賞Ⅱ田村綾梨(鳥取県鳥取市立鹿野学園) 名護翔哉(沖縄県うるま市立天願) 白井こはる(神奈川県LCA国際) 学校賞ⅡLCA国際小学校、大阪教育大学附属天王寺小学校

受賞者 中学生の部 (敬称略)

大賞Ⅱ金本菜々実(広島県広島市立



瀬野川東) 佳作Ⅱ山沢智知(埼玉県(非公表)) ドーソン デイーン博真(東京都アメリカンスクール・イン・ジャパン) 選考委員特別賞Ⅱ井崎英里(宮城県仙台二華) 竹本愛梨(広島県安田女子) 松尾安純(北九州市立志徳) 学校賞Ⅱ北九州市立志徳中学校、広島学院中学校、広島市立瀬野川東中学校、福岡教育大学附属福岡中学校



「私たちのまちの児童文学コーナー」が子ども図書館内にオープン

平成30年12月22日

文学館向かいの中央図書館横にオープンした「子ども図書館」内に、北九州ゆかりの作家と児童文学作品を紹介するコーナーが開設されました。

北九州市では明治期以降の近代産業の発展とともに、子どもたちのための文化活動も盛んになっていきました。一九二六(大正15)年に発足した小倉児童芸術協会は、北九州の児童文化・児童文学発展の礎の一つとなり、童謡や舞踊、児童劇、口演童話の他、昭和前半には児童文学雑誌「小さい旗」が創刊され現在も刊行が続いています。

展示では、ゆかりの作家——竹久夢二、林芙美子、火野葦平、伊馬春部、阿南哲朗、世良絹子、みずかみかずよ、栗原一登、戸川幸夫、神沢利子、竹下文子、まはら三桃、加納朋子、リリー・フランキーの14人(展示順)——と児童文学作品をパネルと書籍、自筆資料などで紹介。書籍は、その場で手にとって読むことができます。

ケース内には、林芙美子の原稿(「童話」)、神沢利子さんの原稿(「くまの子ウーフ」)、まはら三桃さんの創作ノート(「鉄



のしぶきがはねる)、阿南哲朗から火野葦平宛書簡などの直筆資料などを展示しています。また、壁面の黒田征太郎さん(北九州在住の画家・イラストレーター)の絵も見どころの一つです。

中央付近には大きな絵本の造作物を設置。神沢利子「くまの子ウーフ」、みずかみかずよ絵本「きんのストロー」より詩「げやき」、阿南哲朗絵本『よるの動物園第二集』より「キツネを生どった子どもたち」、リリー・フランキー「おでんくん あなたの夢

はなんですかの巻』の四種類の場面を定期的に入れ替えます。絵本の前で写真撮影もできます。その他、ゆかりの作家の児童文学の書籍を集めた閲覧・貸出コーナー、作家がアニメーションになって登場し作品に関するクイズを出す映像コーナーなどもあり、親子で楽しんでいただけます。ぜひ足をお運びください!

【問合せ】
コーナー全体に関すること
093(582)2391(文化企画課)
展示内容に関すること
093(571)1505(文学館)



天災と文学 — 3・11後の文学と九州の災害

平成31年3月1日～31日

本展は全国文学館協議会共同展示「3・11 文学館からのメッセージ」の一環として企画、開催し、今年で7回目を迎えました。

2011年3月11日に発生し、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から8年が経ちました。しかし被災した東北地方は今なお復興が完了したとは言えない状況が続いています。

震災以降、多くの作家たちは、状況に打ちのめされながらも、これまで言葉を紡いできました。それは北九州ゆかりの作家たちも同じです。本展では八幡出身の作家、村田喜代子さん、門司生まれの写真家で小説・エッセイも手がける藤原新也さん、八幡で育った作家の平野啓一郎さん、八幡生まれで門司に育った詩人の高橋陸郎さんら北九州ゆかりの作家たちの作品を中心に、震災後文学作品約200点をご紹介します。



介しました。

また、あわせて北九州市危機管理室協力のもと、岩手県釜石市での被災と復興の様子、九州に被害をもたらした熊本地震、九州北部豪雨、西日本豪雨の被害状況をパネルで展示しました。

アンケート

・日本に生きる身として災害などのように向き合つべきかを考える機会となった。

(40代)

・思っていた以上に3・11関連の本があり、「震災後文学」を読んでもみようと思うきっかけになりました。

(20代)

パネル展 映画の街・北九州 — 北九州フィルム・コミッションの活動と軌跡 —

平成31年3月1日～5月6日

「映画の街・北九州」という都市ブランドを発信し、全国的にも高く評価されている「北九州フィルム・コミッション」の活動を紹介します。パネル展を5月6日まで開催しています。

これまでに北九州フィルム・コミッションが誘致・支援した作品のポスターやロケ風景のパネル、美術道具などの展示の他、ロケ風景の映像もご覧いただけます。(入場無料)



第41回 光草書道展

平成31年1月12日～20日



光草書道会の作品展「文学と書の交わり」が開催されました。昨年ロンドンで開催した「シェイクスピアを書く、ロンドン展」の紹介コーナーも併設。アダム・ヘイルズさん(北九州市立大学准教授)による特別講演「世界を渡るシェイクスピアと書道」も行われました。

〈短歌+映像〉 北九州近代の記憶 〜 炭鉱・製鉄・鉄道 〜

平成31年3月17日

「九州の歌人たち」(現代短歌社、平成30・3)刊行を記念し、北九州地方の炭鉱、製鉄、鉄道を詠んだ短歌について、映像を交え朗読、鑑賞しました。

主催 〓 『九州の歌人たち』 企画編集委員会

出演 〓 阿木津英さん、黒瀬珂瀾さん、五所美子さん、恒成美代子さん



文学館展示リニューアルのお知らせ

文学館では、文学を取り巻く環境の変化などに対応するため、展示リニューアルを行います。

今回のリニューアルでは、現在の年表形式の展示を見直し、数人の文学者に焦点を当てた展示や短歌・俳句・詩・小説などのジャンル別の展示を行います。また、若い世代にも関心の高い北九州ゆかりの現代作家も紹介します。さらに、体験型の展示やアジアに関連した文学の紹介、外国人観光客にも対応した多言語による展示解説なども予定しています。

リニューアルオープンには、「東アジア文化都市2020北九州」が開催される来年春の予定です。2019年度は、改修工事のため、年度途中から休館を予定していますが、休館中も林芙美子文学賞や子どもノンフィクション文学賞などは継続し、館外イベントなども行う予定です。

休館や各種事業などに関する情報は、今後、文学館ホームページやSNSなどを通じて、随時お知らせいたします。

ロビー展

◆第14回 檜山荘子ども俳句大会

11月16日～12月28日

大賞を受賞した大谷中学校1年芝田静香さんの作品など47作品を展示しました。



宗左近 生誕一〇〇年記念事業



宗左近
(1919-2006)

二〇一九年は北九州・戸畑出身の詩人・宗左近の生誕一〇〇年の記念年です。文学館ではその記念事業として、『文学館文庫⑮』『宗左近 鑑賞百人一首』の刊行と、記念イベント「宗左近―あなたにいたくて」を開催いたします。

《文学館文庫⑮》 『宗左近 鑑賞百人一首』



『鑑賞百人一首』
(2019年4月1日刊行)

『鑑賞百人一首』は、小倉百人一首の一首一首に、歌の大意と評釈、作者解説、そして歌へのオマージュとして宗左近が書いた現代詩が付される構成をとっています。百人一首とそれに向き合う宗の詩性を味わい、深めるのに好適の一冊です。販売価格は1000円、北九州市立文学館インフォメーションの他、ブックセンタークレスト小倉本店でも販売しています。

《宗左近生誕一〇〇年記念イベント》

「宗左近―あなたにいたくて」

平成31年5月18日(土) 13:30~17:00

会場：北九州市立響ホール

本イベントの内容は、以下の通りです。

①宗左近ゆかりの地(千葉縣市川市、宮城県中新田町(現・加美町)での顕彰活動の紹介)

②混声合唱団 コール・フェスタによる宗左近作詞の市川讃歌「透明の蕊の蕊」と中新田町歌「瞳に愛を」合唱

③宗左近と親交のあった詩人の高橋順子さん、文芸評論家の三浦雅士さんと、福岡在住の詩人、渡辺玄英さんをお招きしてのシンポジウム「宗左近の文学世界」

④宗左近の詩を使った楽曲「響灘―Les Misérables」を作られた富永裕輔さんのミニコンサート

また本イベントにあわせて、中高生向けの宗左近を紹介する冊子を制作し、イベントでの配布のほか、中学校、高校等にも配布する予定です。宗左近が北九州に生まれて100年。詩人がどのように生き、何を遺したのか、生まれた土地から改めて見直し、考える機会になればと思います。

《参加申込》

文学館に電話、またはFaxで申込(代表者氏名・電話番号・参加人数を明記のこと)。参加無料。

【お祝い】

・高樹のぶ子さん(作家)が2018年度文化功労者に選出(長年にわたり、数多くの優れた短編、長編小説を創作)。

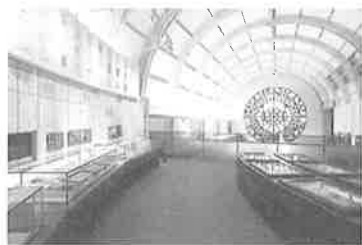
・佐伯泰英さん(作家 現・八幡西区出身)が、第66回菊池寛賞を受賞(「密実命」シリーズに始まる「文庫書き下ろし時代小説」という新たなジャンルを確立し、出版界を活性化)。

・松尾スズキさん(作家、演出家、俳優 現・八幡西区出身)が、第51回北九州市民文化賞を受賞。

・平野啓一郎さん(作家 八幡西区ゆかり)が、『ある男』(文藝春秋)で第70回読売文学賞小説賞を受賞。

・井上荒野さん(作家 北九州市主催・林芙美子文学賞選考委員)が、『その話は今日はやめておきましょう』(毎日新聞出版)で第35回織田作之助賞を受賞。

・磯崎新さん(建築家 北九州市立中央図書館、文学館、北九州市立美術館などを設計)が、2019年ブリッカラー賞を受賞。



文学館内観

お祝い申し上げます。

【お悔やみ】

・堀和久さん(作家) 平成30年9月17日逝去、87歳。現・八幡東区出身。歴史小説を執筆し直木賞候補に4度選出、『長い道程』で第2回中山義秀文学賞受賞など。平成27年度に開催した北九州市立文学館第21回特別企画展「ブンガク最前線―北九州発」にご寄稿や資料提供などでご協力を賜りました。

・黒田呆子さん(黒田バレエスクール 学校長) 平成30年12月4日逝去、90歳。平成28年度発行『北九州市立文学館10周年記念誌 北九州の文学』への黒田晴嵐(舞踏家)の写真提供などでご協力を賜りました。

・土田晶子さん(詩人) 平成31年2月14日逝去、87歳。貴重な文学資料をご寄贈いただいたほか、平成20年度に開催した企画展「響き合う 詩誌『たむたむ』展―107号の歩み 詩と出会って―」でご協力を賜りました。

平成30年度下半期

「偲ぶ会」の紹介

- ・第59回葦平忌(1月20日)
- ・若松区・高塔山 火野葦平文学碑前
- ・第23回久女忌(1月21日)
- ・小倉北区・圓通寺
- ・第42回森鷗外を偲ぶ春の集い(3月26日) 小倉北区・小倉駅前 森鷗外京町旧居記念碑前

小倉祇園太鼓四〇〇周年記念

「小倉祇園太鼓歴史展」

平成31年6月22日(土)～8月18日(日)

主催 北九州市市民文化スポーツ局
文化企画課
協力 小倉祇園太鼓保存振興会
北九州市立文学館

今年、国の重要無形民俗文化財に指定の答申がなされた小倉祇園太鼓は四〇〇周年を迎えます。それを記念し、小倉祇園の歴史と現在を紹介する展覧会を、七月中旬に開催される小倉祇園太鼓の本祭りに合わせて開催します。北九州を代表する祭の一つである小倉祇園の奥深い歴史に触れる絶好の機会ですので、ご期待ください。



小倉祇園太鼓
夕刻に演じられる宵祇園の様子

KBC九州朝日放送、北九州市立美術館 共催事業

森のささやきが聞こえますか 倉本聰の仕事と点描画展

平成31年9月9日(月)～10月20日(日)

北九州市立美術館分館

北海道富良野を拠点にTVドラマ「北の国から」「風のガーデン」「やすらぎの郷」、映画「駅 STATION」など、数多くの名作を世に送り続けてきた脚本家・倉本聰の仕事と点描画を展示。代表作「北の国から」のセットを公開。(文学館リニューアル工事による休館のため、美術館分館で開催)



寄贈者・提供者

青森県近代文学館、朝日新聞出版、阿部あみ、池田曉美、市川市文学ミュージアム、井本元義、岩淵宏子、鶴澤敏江、浦添市立図書館、雲心書道会、大阪俳句史研究会、岡田功、岡田哲也、大佛次郎記念館、小野鹿角男、かごしま近代文学館・メルヘン館、鹿児島大学文学部、神奈川近代文学館、鎌倉文学館、菊池寛記念館、北川透、北九州市立自然史歴史博物館、北九州市立美術館、北九州文化連盟、熊本県立図書館、grandbooks、現代俳句協会、光草書道会、高志の国文学館、こおりやま文学の森資料館、近藤洋太、今野寿美、さいたま文学館、佐々木央、薩摩川内市川内まごころ文学館、椎窓猛、自由律俳句結社青穂、菅原滋子、杉田重男、杉山恵一、鈴木城頭土、鈴木睦子、世田谷美術館、船団の会、高野利昭、田原浩二、鶴岡市立藤沢周平記念館、寺井谷子、徳島県立文学書道館、長野ヒデ子、那須正幹、夏野雨、日本基督教団八雲教会、日本近代文学館、日本現代詩歌文学館、入学洋平、沼津市芹沢光治良記念館、芳賀博子、波佐間義之、長谷川啓、秦夕美、濱村泰子、はまゆう句会、林田愼之助、原賀いずみ、曳野利、姫路文学館、平出隆、福

提供雑誌

岡市文学館、ふくやま文学館、文京区立森鷗外記念館、北海道立文学館、前田秀子、松本梨江、南川隆雄、宮沢賢治記念館、武者小路実篤記念館、柳生じゅん子、山内克士、山口公和、夢野良平、吉村昭記念文学館、渡邊美保

藍、avant、青嶺、馬酔木、あしへい、花鶏、穴生文芸、あん、いのちの籠、色鳥、海、鷗外、沖、海峽派、回游、九州俳句、九州文學、九大日文、群炎、月刊俳句界、玄海、自鳴鐘、scripta、青穂、船団、川柳くろがね、川柳むらさき、草原、空、太宰府だより、タルタ、小さい旗、伝書鳩、天籟通信、投稿俳句界、とびうお、新墾、虹野、浜木綿、ふよう、ぼち袋、民博通信、八雁、與謝野晶子研究、よみびと、遼

2019年3月31日 発行 北九州市立文学館

〒803-0813
北九州市小倉北区内4-1
TEL 093-571-1505
<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

- 開館時間
9:30～18:00 (入館は17:30まで)
- 休館日
毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
年末年始